湘南藤沢徳洲会病院麻酔科専門研修プログラム

1. 専門医制度の理念と専門医の使命

① 麻酔科専門医制度の理念

麻酔科専門医制度は，周術期の患者の生体管理を中心としながら，救急医療や集中治療における生体管理，種々の疾病および手術を起因とする疼痛・緩和医療などの領域において，患者の命を守り，安全で快適な医療を提供できる麻酔科専門医を育成することで，国民の健康・福祉の増進に貢献する.

② 麻酔科専門医の使命

麻酔科学とは，人間が生存し続けるために必要な呼吸器・循環器等の諸条件を整え，生体の侵襲行為である手術が可能なように管理する生体管理医学である．麻酔科専門医は，国民が安心して手術を受けられるように，手術中の麻酔管理のみならず，術前・術中・術後の患者の全身状態を良好に維持・管理するために細心の注意を払って診療を行う，患者の安全の最後の砦となる全身管理のスペシャリストである．同時に，関連分野である集中治療や緩和医療，ペインクリニック，救急医療の分野でも，生体管理学の知識と患者の全身管理の技能を生かし，国民のニーズに応じた高度医療を安全に提供する役割を担う.

2. 専門研修プログラムの概要と特徴

神奈川県湘南地区に位置し、急性期医療に力を入れている.このエリアを中心とした各連携施設と首都圏にある大学病院との連携にて,専攻医が整備指針に定められた麻酔科研修の到達目標を達成できる専攻医教育を提供し，地域の麻酔診療を維持すべく十分な知識・技術・態度を備えた麻酔科専門医を育成する．麻酔科専門研修プログラム全般に共通する研修内容の特徴などは別途資料**麻酔科専攻医研修マニュアル**に記されている.

本研修プログラムでは，地域医療に特化した連携施設での研修を特徴とし，研修終了後は，日本の地域医療の担い手として国内の希望する施設で就業が可能となる.

3. 専門研修プログラムの運営方針

基本方針は以下の通りである。

- 前半２年間は、麻酔全般、幅広く経験できるように配慮する。
- ３年目以降は、小児麻酔、産科麻酔、心臓麻酔、集中治療、ペインクリニックなどのサブスペシャリティ領域の経験を加える．専門施設、大学病院での研修を配慮する

- ４年目以降は、地域医療地区や遠隔地連携施設等で異なる環境下での麻酔経験を重ねる。
- 夜間緊急や重症症例の経験ができるように適宜配慮する。
- 研修内容・進行状況に配慮して，プログラムに所属する全ての専攻医が経験目標に必要な特殊麻酔症例数を達成できるようローテーションを構築する.
- 目標を達成できることが前提であるが、自由度の高い研修となるように配慮したい。

研修実施計画例

年間ローテーション表

	１年目	２年目	３年目	４年目
A	湘南藤沢徳洲会病院	市中連携病院	湘南鎌倉総合病院 大学病院 埼玉小児医療センター	野崎徳洲会病院等 東京女子医大集中治療 自由選択
B	市中連携病院	湘南藤沢徳洲会病院	大学病院 東京女子医大集中治療 埼玉小児医療センター	湘南鎌倉総合病院 ペインクリニック等 自由選択

週間予定表

湘南藤沢徳洲会病院の例

	月	火	水	木	金	土	日
午前	手術室	手術室	休み	手術室	手術室	手術室	休み
午後	手術室	手術室	休み	手術室	手術室	休み	休み
当直		当直					

4. 研修施設の指導体制

① 専門研修基幹施設

医療法人徳洲会 湘南藤沢徳洲会病院（以下，湘南藤沢徳洲会病院）

研修実施責任者：福井　公哉

専門研修指導医：福井　公哉（臨床麻酔・心臓麻酔・集中治療）

指導医：日野　智子　（臨床麻酔・シミュレーション）

大澤　眞理子　（臨床麻酔）

窪田　絹子　（臨床麻酔）

野中　裕子　（臨床麻酔・ペイン）

浅見　優　（集中治療）

今永　和幸　　（心臓麻酔）
横内　かつみ　（臨床麻酔）
小出　史子　　（臨床麻酔）
小澤　寛子　　（臨床麻酔）
小野寺　潤　　（臨床麻酔）
増田　義之　　（臨床麻酔）
長谷　知美　　（心臓麻酔）
樋口　裕樹　　（臨床麻酔）
廣田　遥子　　（臨床麻酔）

日本麻酔科学会麻酔科認定病院　第879号

断らない医療をモットーに運営している総合病院である。一般的な手術症例は、偏りが少なく、心臓麻酔、産科麻酔、小児麻酔、脳外科、呼吸器外科、ロボット支援下手術症例も経験することができる。神経ブロックなどの区域麻酔も積極的に行っている。手術症例以外では、経食道心エコー検査に従事しており、経験を積める。集中治療室運営を強化中である。2026年度からペイン診療を強化し、無痛分娩を開始している。

②　専門研修連携施設

■東京女子医科大学病院　（以下，東京女子医科大学本院）
研修プログラム統括責任者：長坂　安子（麻酔）
専門研修指導医：長坂　安子（麻酔）
黒川　智(麻酔)
尾崎　恭子(麻酔)
鈴木　康之(麻酔)
笹川　智貴(麻酔，ペインクリニック)
吉谷　健司（麻酔）
土井　健司(麻酔)
石川　高(麻酔)
古井　郁恵(麻酔)
森脇　翔太（麻酔）
武石　健太(麻酔)
中澤　莉沙(麻酔)
加賀屋　菜々(麻酔)
鈴木　真也(麻酔)

川本　英智（麻酔）
羽二生　顕（麻酔）

認定病院番号：32

特徴：豊富な症例数を背景として包括的な麻酔研修・ペインクリニック・緩和ケアの研修も可能です．心臓麻酔研修は特に力を入れており，心臓麻酔専門医の取得も可能です．多種の臓器移植（心臓・腎臓）や合併症（先天性心疾患等）妊娠の管理，エコーガイド下ブロック麻酔研修など様々なスペシャリティに対応します．

麻酔管理症例数(2025年度)：6487件

■昭和医科大学病院

研修実施責任者：大江　克憲

専門研修指導医：大江　克憲（心臓麻酔、小児心臓麻酔、集中治療）
加藤　里絵（産科麻酔、手術麻酔）
小谷　透（集中治療）
米良　仁志（ペインクリニック）
尾頭　希代子（呼吸管理、心臓麻酔、集中治療）
細川　幸希（産科麻酔、手術麻酔）
小林　玲音（ペインクリニック、手術麻酔）
石田　裕介（心臓麻酔、手術麻酔、集中治療）
五十嵐　友美（集中治療）
原　詠子（ペインクリニック、手術麻酔）
泰地　沙季（手術麻酔）
佐々木　友美（手術麻酔）
五反田　倫子（産科麻酔、手術麻酔）
落合　弦（産科麻酔、手術麻酔）
飯島　香子（産科麻酔、手術麻酔）
髙橋　有里恵（小児心臓麻酔、手術麻酔）
羽二生　毬子（手術麻酔）

麻酔科認定病院番号：33

特徴：手術症例が豊富で専門医取得に必要な特殊症例が当施設で研修できます。食道手術、肝臓手術、呼吸器外科手術などの麻酔管理を十分に経験でき、心臓血管外科も成人と小児の両方を数多く行っています。手術麻酔に加えてペインクリニック、無痛分娩（産科麻酔）、集中治療、緩和医療などのサブスペシャルティの研修も可能です。多職種による術前外来も開設しており、専門医が習得すべき周術期管理をバランス良く学べます。

■埼玉県立小児医療センター

研修実施責任者：蔵谷　紀文

専門研修指導医：蔵谷　紀文　（麻酔・小児麻酔）
濱屋　和泉　（麻酔・小児心臓麻酔）
古賀　洋安　（麻酔・小児麻酔）
伊佐田　哲朗　（麻酔・小児麻酔）
小嶋　大樹　（麻酔・小児麻酔）
大橋　智　（麻酔・小児麻酔）
駒崎　真矢　（麻酔・小児麻酔）
高田　美沙　（麻酔・小児麻酔）
坂口　雄一　（麻酔・小児麻酔）
藤本　由貴　（麻酔・小児麻酔）
鴻池　利枝　（麻酔・小児麻酔）
影山　翔一　（麻酔・小児麻酔）

認定病院番号　399

特徴：研修者の到達目標に応じて、小児麻酔・周術期管理の研修が可能。小児鏡視下手術や新生児手術、心血管手術のハイボリュームセンターです。小児がん拠点病院であり、総合周産期母子医療センター、小児救命救急センター、移植センター（肝移植）が併設されています。小児集中治療の研修も可能です(PICU14, HCU20, NICU30, GCU48)。さいたま新都心駅と北与野駅からペデストリアンデッキで直接アクセス可能です。

麻酔科管理症例　3908例（2025年度）

■昭和大学横浜市北部病院

研修実施責任者：信太　賢治
専門研修指導医：信太　賢治　　（麻酔全般・ペインクリニック）
岡本　健一郎　（緩和医療・ペインクリニック）
西木戸　修　　（緩和医療・ペインクリニック）
坂本　篤紀　　（麻酔全般・心臓麻酔）
山村　彩　　（麻酔全般）
釋尾　知春　　（麻酔全般・神経ブロック・経食道心エコー）
髙橋　健一　　（麻酔全般・心臓麻酔）
道姓　拓也　　（麻酔全般・心臓麻酔）
荘田　博朗　　（麻酔全般）
津島　佑季子　（麻酔全般）
谷本　翔太　　（麻酔全般）
松土　桜子　　（麻酔全般）
平井　顕　　（麻酔全般）
小野　沙恵　　（麻酔全般）

研修委員会認定病院：928

特徴：手術麻酔では外科系各科のバランスのとれた豊富な症例数があるため，当院だけでも麻酔科専門医試験に必要な症例数を担当することができます．病院毎の手術症例の違いやサブスペシャルティ領域としての集中治療やペインクリニックの研修を含めて，昭和医科大学病院麻酔科を初めとした多彩な連携病院でオーダーメイドのローテーションを行います．

■東名厚木病院
研修実施責任者：岩倉秀雅
専門研修指導医：岩倉秀雅、福島沙夜乃、樽本義男、岩岡由紀子、田中一生

認定病院番号　第1052号

特徴：神奈川県央地区の地域医療支援病院で、救急搬送数が多いのが特徴です。臨床麻酔だけでなく、総合診療、緩和ケア、ペインクリニック、救急センター、ICUなど広く周辺領域が学べる環境を整えています。

■宇治徳洲会病院

研修プログラム統括責任者：竹田　智浩

専門研修指導医：竹田　智浩（麻酔）
槇尾　真理（麻酔）
上田　陽子（麻酔）
佐竹　早紀子（麻酔）
福島　弘子（麻酔）

麻酔科認定病院番号：1258

特徴：

当院は高度救命救急センター（民間病院では全国で2番目の認定)、地域がん　診療携拠点病院地域周産期母子医療センター、脳血管センター（１次脳卒中センターのコア施設）の指定を受けております。

緊急手術も多く、特に京都府南部地域で心臓大血管手術管理の件数が最も多いです。また、外傷センター、四肢接合センターの設立、ハイブリッドERなどの設備も整えております。

ロボット（ダビィンチ・HUGO）手術は、泌尿器科・消化器外科で行っています。

硬膜外ブロックをはじめとした神経ブロック症例も豊富に研修ができます。手術の麻酔管理以外に、ペインクリニック（認定施設）の研修も可能です。サブスペシャリティーは、心臓血管麻酔専門医、集中治療専門医取得が可能です。

■湘南鎌倉総合病院

研修プログラム統括責任者：倉橋清泰

専門研修指導医：倉橋　清泰（麻酔全般、集中治療、生理学、基礎・臨床研究）
相野田　桂子（麻酔全般、心臓血管麻酔）
石川 亜希子（臨床麻酔）
太田　隆嗣（麻酔全般、心臓血管麻酔、集中治療）
今西　晶子（麻酔全般、小児麻酔）
菊池　佳奈（麻酔全般、小児麻酔、産科麻酔）
渡邊　至（麻酔全般）
春原　啓人（麻酔全般）
吉村　円花（麻酔全般）
黒澤 暁子（臨床麻酔）
勝井 真咲 アン（臨床麻酔）

館山　亜弥（麻酔全般）
西嶋　千絵（麻酔全般）
藤木　翔太（麻酔全般）
ヨナシロ　祥子（麻酔全般）

認定病院番号：1436
麻酔科管理症例数：症例　8117(2025年度)

特徴：鎌倉市、横浜市、藤沢市という一大医療圏にまたがる地域の中核病院であり、徳洲会グループの中でもフラグシップ病院としての機能を担っています。去年、第8版にバージョンアップしたJCIを高い成績でクリアし、安全・安心な質の高い医療を提供しています。
麻酔科研修上の特徴を以下に列挙します。

- 豊富な手術件数とバランスのとれた手術内容で、麻酔研修（一般および特殊麻酔）を 3年間で終了させることができます。
- 定型的な心血管手術に加え、低侵襲心臓手術（MICS)、低侵襲カテーテル手術（TAVI, Mitral Clip, 左心耳閉鎖）へも積極的に関与しています。これらの研修を通じて循環管理の要点を習得できます。
- 心臓血管麻酔学会認定医兼JB-POT習得者が複数名おり、経食道心エコーの修得が容易にできます。
- 麻酔科は今の時代手術室だけに留まっていません。当院では、無痛分娩、陽子線治療を受ける小児の鎮静、カテ室での脳血管内治療（DSA)、婦人科の小線源治療など、手術室外の処置に積極的に関与しています。
- 緊急手術が豊富なことから、定型的な手術麻酔とは異なる応用力を身につけることができます。将来「麻酔科専門医です」と言うからには、このような対応を卒なくこなすことが求められます。
- 長年医育機関に勤務し、また学会教育委員を務めていた倉橋主任部長がプログラム統括責任者を務め、総合的に質の高い教育プログラムを提供しています。
- 医療の世界は屋根瓦式教育と言われていますが、専攻医の一つ下の瓦には、４倍近い倍率を潜り抜けてマッチングしてきたやる気に溢れる23人の研修医が収まっています。これの意味するところは、そのような研修医の直属の上司となる専攻医は、彼らに教えながら高いレベルで自身も成長できるということになります。

■東京西徳州会病院
研修実施責任者：工藤　雅響
専門研修指導医：工藤　雅響（麻酔・救急・心臓血管麻酔）

秋山　類（麻酔・集中治療・小児）
松岡　康子（麻酔・ペイン）
長江　順子（麻酔）
伊勢　孔祐（麻酔）
深田　智子（麻酔、小児）
折井　亮（麻酔）

認定病院番号：1489
特徴：地域における急性期病院であるため、一般待機手術から心臓血管手術、重症急性疾患など幅広い症例の麻酔管理経験が可能。特に心臓血管手術においては、経食道心エコーを用いた評価や薬物動態に基づいた麻酔管理を習得することが可能である。

■帝京大学医学部附属溝口病院
研修プログラム統括責任者：丸山晃一
専門研修指導医：
丸山晃一（専門分野：臨床麻酔、挿管困難症の麻酔、心肺蘇生法）
安藤富男（専門分野：臨床麻酔、神経科学）
平林　剛（専門分野：臨床麻酔、ペインクリニック、呼吸管理）
秋久友希（専門分野：臨床麻酔）
齋藤みなみ（専門分野：臨床麻酔、救急医学）

認定病院番号：第286号

特徴：大学病院ではあるが２次救急に対応した急性期病院であり、特殊症例よりは一般的な疾患を対象とした手術が多い。内訳は各種内視鏡下手術の割合が多く、特にロボット支援下手術は前立腺全摘術のほか、腎部分切除、上部・下部消化管疾患、肺外科疾患、婦人科疾患においても広く活用されている。後期研修終了後には学位取得を目指すとともに、サブスペシャリティーを極めるべく国内・国外留学を強く推奨している。

麻酔科管理症例数：3633例

■葉山ハートセンター
研修実施責任者：小出康弘
専門研修指導医：小出　康弘（麻酔）
志村　福子（麻酔）

認定病院番号: 1097
特徴：
心臓血管外科手術や不整脈カテーテル治療を行う専門性の追求と地域に根ざした救急医療を行う病院である。対象手術は、開心術、大動脈ステント内挿術、心房細動アブレーション、一般外科、整形外科である。心疾患を持った患者が多く、心臓再手術や心疾患を持つ患者の非心臓手術など幅広く学べる。

■榛原総合病院
研修実施責任者：森田信敏
専門研修指導医：秋永泰嗣
専門医：秋永泰嗣

認定病院番号：1327

特徴：
地域唯一の中核病院として地域医療を守る病院。
手術症例は年間約2,200件（整形外科700件、心臓外科50件、外科350件、泌尿器科100件、口腔外科900件、その他100件）

■共愛会病院
研修実施責任者：責任者：太田智之
専門研修指導医：澁田達史（麻酔科）、谷口周平（麻酔科）、坂本幸基（麻酔科）、
専門医：澁田達史（麻酔科）、谷口周平（麻酔科）、坂本幸基（麻酔科）、
只野隆幸（麻酔科）
麻酔科認定病院番号：1876

特徴：地域医療における安全で適切な麻酔診療の実施
地域にある中規模病院で、消化器・耳鼻咽喉科（小児を含む）・整形外科領域手術を中心とした麻酔管理を経験することができます。
また、高齢者症例が多くを占めるため、慢性疾患管理を含めた周術期管理を経験することができます。

■野崎徳洲会病院
研修実施責任者：武富　太郎
専門医：武富　太郎
認定病院番号：1822

特徴：

１．緊急の心臓大血管手術、腸穿孔、くも膜下出血、脊髄損傷などの重症症例が多く、術後管理を含めて周術期管理が学べる。

２．外科医との距離が非常に近く、コミュニケーションをとりながらストレスなく麻酔・術後管理が学べる。

３．ICU管理では心臓大血管手術の術後管理、循環不全、呼吸不全（ECMOを含む)、敗血症、代謝性疾患などの内科管理まで幅広い症例を麻酔科が主体となって管理できる。

４．院内の人工呼吸装着患者の管理をRST（呼吸管理チーム）としておこなっている。院内急変対応、外来を含めた経食道心エコー検査、気管切開などの小手術も麻酔科で行っており、院内横断的な活躍ができる。

■中部徳洲会病院

研究実施責任者：古賀　寛教（集中治療，　麻酔）

専門研修指導医：古賀寛教（集中治療，　麻酔）

伊波　寛（集中治療）

野村岳志（集中治療・麻酔）

専門医：髙木龍希（麻酔）

認定番号：713

特徴：

沖縄県中部ライカムにある急性期中核病院である。屋上ヘリポートをもつ災害拠点病院の役割とともに、最先端医療およびがん診療にも力を入れており、手術支援ロボット2台を稼働している。麻酔では、神経ブロック、集中治療ではPOCUSの研修が可能である。救急医療、離島医療支援の経験も可能である。

■日鋼記念病院

研修プログラム統括責任者：鎌田　康宏

専門研修指導医：鎌田　康宏（麻酔全般）

認定番号: 239

麻酔科管理症例数：症例　1,283件(2025年度)

特徴：北海道室蘭市にある令和7年で創立115年を迎えた総合病院であり、2025年11月に徳洲会グループに加入したばかりです。「医療人として組織として社会を貢献する」を使命として、安全・安心な質の高い医療を提供しています。
麻酔科研修の特徴について下記に示します。

【指導方針】
麻酔管理を通して呼吸・循環・輸液などの全身管理の知識を修得することを目標としています。研修期間中には術前評価、麻酔法の選択、術中の全身管理、術後回診などの麻酔管理の研修が主になり、数多くの手術管理の研修を行います。

【研修目標】
・到達目標：麻酔管理を通し呼吸・循環・輸液などの全身管理の知識を修得する
・特徴的な指導内容：術前評価、麻酔法の選択、術中の全身管理、術後回診

【メッセージ】
研修期間は限られているため、できることには限りがありますが、麻酔科の診療にも興味を持っていただけると嬉しいです。軽症から重症の患者さんに適切な処置ができるように、一緒に学んでいきましょう。

5. 専攻医の採用と問い合わせ先

① 採用方法

専攻医に応募する者は，日本専門医機構に定められた方法により，期限までに志望の研修プログラムに応募する.

② 問い合わせ先

本研修プログラムへの問い合わせは，湘南藤沢徳洲会病院websiteより麻酔科専攻医募集，電話，e-mail，郵送のいずれの方法でも可能である.

湘南藤沢徳洲会病院　麻酔科 福井 公哉　部長
神奈川県藤沢市辻堂神台　1-5-1
TEL 0466-35-1177
E-mail　fujitoku-senior@tokushukai.jp
Website　https://shonan-doctor.jp/

6. 麻酔科医資格取得のために研修中に修めるべき知識・技能・態度について

① 専門研修で得られる成果（アウトカム）

麻酔科領域の専門医を目指す専攻医は，4年間の専門研修を修了することで，安全で質の高い周術期医療およびその関連分野の診療を実践し，国民の健康と福祉の増進に

寄与することができるようになる．具体的には，専攻医は専門研修を通じて下記の4つの資質を修得した医師となる．

１）十分な麻酔科領域，および麻酔科関連領域の専門知識と技能
２）刻々と変わる臨床現場における，適切な臨床的判断能力，問題解決能力
３）医の倫理に配慮し，診療を行う上での適切な態度，習慣
４）常に進歩する医療・医学に則して，生涯を通じて研鑽を継続する向上心

② 麻酔科専門研修の到達目標

国民に安全な周術期医療を提供できる能力を十分に備えるために，研修期間中に別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた専門知識，専門技能，学問的姿勢，医師としての倫理性と社会性に関する到達目標を達成する．

③ 麻酔科専門研修の経験目標

研修期間中に専門医としての十分な知識，技能，態度を備えるために，別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた経験すべき疾患・病態，経験すべき診療・検査，経験すべき麻酔症例，学術活動の経験目標を達成する．

このうちの経験症例に関して，原則として研修プログラム外の施設での経験症例は算定できないが，地域医療の維持など特別の目的がある場合に限り，研修プログラム管理委員会が認めた認定病院において卒後臨床研修期間に経験した症例のうち，専門研修指導医が指導した症例に限っては，専門研修の経験症例数として数えることができる．

7. 専門研修方法

別途資料**「麻酔科専攻医研修マニュアル」**に定められた１）臨床現場での学習，２）臨床現場を離れた学習，３）自己学習により，専門医としてふさわしい水準の知識，技能，態度を修得する．

8. 専門研修中の年次毎の知識・技能・態度の修練プロセス

専攻医は研修カリキュラムに沿って，下記のように専門研修の年次毎の知識・技能・態度の到達目標を達成する．

専門研修１年目

手術麻酔に必要な基本的な手技と専門知識を修得し，ASA1～2 度の患者の通常の定時手術に対して，指導医の指導の元，安全に周術期管理を行うことができる．

専門研修 2 年目

1 年目で修得した技能，知識をさらに発展させ，全身状態の悪い ASA3 度の患者の周術期管理や ASA1〜2 度の緊急手術の周術期管理を，指導医の指導のもと，安全に行うことができる．

専門研修 3 年目

心臓外科手術，胸部外科手術，脳神経外科手術，帝王切開手術，小児手術などを経験し，さまざまな特殊症例の周術期管理を指導医のもと，安全に行うことができる．また，ペインクリニック，集中治療，救急医療など関連領域の臨床に携わり，知識・技能を修得する．

専門研修 4 年目

3 年目の経験をさらに発展させ，さまざまな症例の周術期管理を安全に行うことができる．基本的にトラブルのない症例は一人で周術期管理ができるが，難易度の高い症例，緊急時などは適切に上級医をコールして，患者の安全を守ることができる．

9. 専門研修の評価（自己評価と他者評価）

① 形成的評価

- 研修実績記録：専攻医は毎研修年次末に，**専攻医研修実績記録フォーマット**を用いて自らの研修実績を記録する．研修実績記録は各施設の専門研修指導医に渡される．
- 専門研修指導医による評価とフィードバック：研修実績記録に基づき，専門研修指導医は各専攻医の年次ごとの知識・技能・適切な態度の修得状況を形成的評価し，**研修実績および到達度評価表**，**指導記録フォーマット**によるフィードバックを行う．研修プログラム管理委員会は，各施設における全専攻医の評価を年次ごとに集計し，専攻医の次年次以降の研修内容に反映させる．

② 総括的評価

研修プログラム管理委員会において，専門研修 4 年次の最終月に，**専攻医研修実績フォーマット**，**研修実績および到達度評価表**，**指導記録フォーマット**をもとに，研修カリキュラムに示されている評価項目と評価基準に基づいて，各専攻医が専門医にふさわしい①専門知識，②専門技能，③医師として備えるべき学問的姿勢，倫理性，社会性，適性等を修得したかを総合的に評価し，専門研修プログラムを修了するのに相応しい水準に達しているかを判定する．

10. 専門研修プログラムの修了要件

各専攻医が研修カリキュラムに定めた到達目標，経験すべき症例数を達成し，知識，技能，態度が専門医にふさわしい水準にあるかどうかが修了要件である．各施設の研修実施責任者が集まる研修プログラム管理委員会において，研修期間中に行われた形成的評価，総括的評価を元に修了判定が行われる．

11. 専攻医による専門研修指導医および研修プログラムに対する評価

専攻医は，毎年次末に専門研修指導医および研修プログラムに対する評価を行い，研修プログラム管理委員会に提出する．評価を行ったことで，専攻医が不利益を被らないように，研修プログラム統括責任者は，専攻医個人を特定できないような配慮を行う義務がある．

研修プログラム統括管理者は，この評価に基づいて，すべての所属する専攻医に対する適切な研修を担保するために，自律的に研修プログラムの改善を行う義務を有する．

12. 専門研修の休止・中断，研修プログラムの移動

① 専門研修の休止

- 専攻医本人の申し出に基づき，研修プログラム管理委員会が判断を行う．
- 出産あるいは疾病などに伴う 6 ヶ月以内の休止は 1 回までは研修期間に含まれる．
- 妊娠・出産・育児・介護・長期療養・留学・大学院進学など正当な理由がある場合は，連続して 2 年迄休止を認めることとする．休止期間は研修期間に含まれない．研修プログラムの休止回数に制限はなく，休止期間が連続して 2 年を越えていなければ，それまでの研修期間はすべて認められ，通算して 4 年の研修期間を満たせばプログラムを修了したものとみなす．
- 2 年を越えて研修プログラムを休止した場合は，それまでの研修期間は認められない．ただし，地域枠コースを卒業し医師免許を取得した者については，卒後に課せられた義務を果たすために特例扱いとし 2 年以上の休止を認める．

② 専門研修の中断

- 専攻医が専門研修を中断する場合は，研修プログラム管理委員会を通じて日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会へ通知をする．
- 専門研修の中断については，専攻医が臨床研修を継続することが困難であると判断した場合，研修プログラム管理委員会から専攻医に対し専門研修の中断を勧告できる．

③ 研修プログラムの移動

- 専攻医は，やむを得ない場合，研修期間中に研修プログラムを移動することができる．その際は移動元，移動先双方の研修プログラム管理委員会を通じて，日本専門医機構の麻酔科領域研修委員会の承認を得る必要がある．麻酔科領域研修委員会は移動をしても当該専攻医が到達目標の達成が見込まれる場合にのみ移動を認める．

13. 地域医療への対応

本研修プログラムの連携施設には，地域医療の中核病院としての榛原総合病院，共愛会病院など幅広い連携施設が入っている．医療資源の少ない地域においても安全な手術の施行に際し，適切な知識と技量に裏付けられた麻酔診療の実施は必要不可欠であるため，専攻医は，大病院だけでなく，地域での中小規模の研修連携施設においても一定の期間は麻酔研修を行い，当該地域における麻酔診療のニーズを理解する．

14. 専攻医の就業環境の整備機能（労務管理）

研修期間中に常勤として在籍する研修施設の就業規則に基づき就業することとなります．専攻医の就業環境に関して，各研修施設は労働基準法や医療法を順守することを原則とします．プログラム統括責任者および各施設の研修責任者は専攻医の適切な労働環境（設備，労働時間，当直回数，勤務条件，給与なども含む）の整備に努めるとともに、心身の健康維持に配慮します．

年次評価を行う際，専攻医および専門研修指導医は研修施設に対する評価（Evaluation）も行い，その内容を専門研修プログラム管理委員会に報告する． 就業環境に改善が必要であると判断した場合には、当該施設の施設長、研修責任者に文書で通達・指導します．